

子ども百景

校長 吉田 隆

学校は子どもと教職員が共に育つ場所です。日常の何気ないかわり合いの中で、小さな発見や学びがあり、そこに学校現場ならではの楽しさや感動も生まれます。

「夢をもつ」

教室を回っている途中、将来の夢を記述しているAさんに声を掛けました。「将来の夢はユーチューバーになることなんだね。」「うん！校長先生の将来の夢は何ですか？」予想外の質問に「そうだなあ：」と少し間を置いてみると、隣のBさんが「校長先生は、校長先生になったから、もう夢が叶ってるよ。」とAさんに語るのでした：「何歳になっても夢を持たねばならないと気づかされた瞬間でした。」

「観察力」

朝の玄関での一コマ
「校長先生の傘は大きいなあ！」
「ワイシャツの色が、昨日と違う！」
「今日は何でメガネ掛けてないの？」
子どもの観察力には、いつも驚かされます。昨日着ていたシャツの色など、恐らく家族も覚えてないでしょう：

「走り抜く」

陸上競技場でのマラソン大会。大集団の中程、前のランナーとの間隔が空

き、ペースが落ちそうなCさんを見て私も併走を始めました。Cさんからは荒い息づかいが聞こえます。しかし、ペースを落とさず必死に前方を見つめながら走り続けます。私が離れた後も、Cさんの独走は続きましたが、歯を食い縛って自己ベストでゴールしました。「順位がすべてじゃない」自分に勝つんだ！」という叫びが聞こえてくるかのようでした。

「売りにげに貢献」

「一日店員」に挑戦している子どもたちの様子を見に行った時のことです。「校長先生！全部の店を回っているんですか？」会議の合間をぬって今来たところだよ。二、三軒回るかなあ。「ラッキー！（隣の友だちと目を合わせて）「コロッケは売り切れましたが、奥の方に他にも美味しい品物がありますよ。」と案内され、気づけばハムカツとメンチカツを購入していました。商才溢れる子ども店員さんでした。

* * *

子どもたちの瑞々しい感性や目標に向かって汗する姿にふれて、楽しさや感動を共有できるところに教職の魅力があります。その魅力を多くの人に伝えたいと思う今日この頃です。